



利
1966
3



5
1966
3



崔子集卷之二目錄

更衣

郭乙

灌佛

當麻會

牡丹

葵

夏堂

卯苑

夏小五

杜若

若楓

鮎



崔子集卷之二

竹子

百合

高荷

早苗

鶯

鶯

凡小角豆

耳月

足指籠子

小月

衣衣

水鶯

美人

新茶

扇

久立

方印半

一與酒

細線

印字洗

妙室

蓮

早和尊

法多

松板

籠

崔子集卷之三

夏

文家

楊沈詩成之

君不見... 君不見... 君不見...

蘇亮古恭者

君不見... 君不見... 君不見...

伏見一盞法師

良つんよんるっゆかあせくれ

な村新屋澤

少り神の志うゆらも茶代阿りせ
志おんてや身のあうこれらも
いしくよんるっゆかあせくれ

中村正を

縮れみやあせくれんとさあせ

勝志

夏もさて秋もささくゆらも

お本光根

魚くのほきあをせとあせくれ

日列道安

えれらあひありるさあせくれ

塙成元

身もさてけしああせくれ

新屋新光房

信陽方陣のあまの糸人

夏雲

種村三光

卯月までやうくうらむやうせ

郭

接列路也

宇治よきうりて戸々

平さかけしちのなほ

塙正法成安

卯月までやうくうらむやうせ

塙正法

卯月までやうくうらむやうせ

楽六楽尚女

園と幼ようくうらむやうせ

本園と室新法

卯月までやうくうらむやうせ

知ぬしむる事しむる事なり子親
なれどもかくて我をかくる事なり

教叔法作

郭らたつてふ如くはなる事なり

懐列西村

門出よむ事してかきしなり

畠田勝正

地も少き事位なる事なり

日列文田文

方たつてなる事なり

依事教正

一なる事なり

勝正

事なる事なり

事なる事なり

事なる事なり

西洞院書式

あつたよふたをぬえりて

作古事記

あつたよふたをぬえりて

小倉書院

あつたよふたをぬえりて

本村新月潭

あつたよふたをぬえりて

あつたよふたをぬえりて

あつたよふたをぬえりて

田中一巻

あつたよふたをぬえりて

清心

あつたよふたをぬえりて

正之

あつたよふたをぬえりて

佐人録

~~~~~

美川盛

初言とる新枕とれい七廿き

小月あかじのまか田本を

治政

~~~~~

嘉文

~~~~~

貞實

~~~~~

知席

~~~~~

~~~~~

と村な

~~~~~



持列川為子

五らうんかかぬ不足袋はくひも

堀成元

五れはまゝくおりのれがく

銀行新元方

きく身と我わくたきり郭

六月白くゆきまきれ

つれゆきさつさうり

子規とをみくわぬ及立哉

卯花

依見二盞花

人としりる雲はくもぬらふ

お杉物

おむの角張の妙なるれらふ

灌侍

お杉物







此のうらみはあつたてのうらみはあつた

東六条辰下

梅の香 徳念のりら 夏こそら

當麻念

もと正次

のりまのり倍音丁のほろり

なむ物及障

はまのりま向んるものまんり

横列可心

成竹やわらむし

堀宗永

想ひぬえし

杜若

おふ貞本

あつたてのうらみはあつた

堀成元



細い匂の下まよくかたりうまうま

あふ成次

きくすめいしひけらうまうま

和田正持

息よ汗あせやまのうらまうま

江別之丞理安

きくすめいしひけらうまうま

あふ成次

あふ成次とあふ成次

あふ成次

あふ成次とあふ成次

あふ成次とあふ成次

あふ成次とあふ成次

あふ成次とあふ成次

牡丹

あふ成次



よらひもよれもさるや竹のあなを  
きくつきのあまのつくり也也也

中林守重

あられもあまのつくりもさるや

作古あ部

ちてゆきしやと念地よさるや

物法信正

やうゆきもゆきもさるや人の心のり

政道

あらしもさるやさるやさるや

場業あ

あらしもさるやさるやさるや

田崎持守

あらしもさるやさるやさるや

坪川南氏

あらしもさるやさるやさるや



小山清庵

豆人〜系とめて〜からうんたのま

若楓

こくろて

なね軒

おえ〜らひよあま〜もあま〜

養

懐列音書

物のけよそこらあまひれう〜

伏見一盞法師

うらゝのて〜るわぬね〜らあまひ

なね軒

〜〜からびのほ〜もあ〜らあま

あ〜このあ〜らあま〜ひあ〜らあま

時寛の奥りよ〜

張竹軒

〜あ〜の〜ね〜らあ〜れあ〜ま



楳

おねね月澤

こらむのさくさくさくさくさくさく

鮎

栲列内云

あん〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

おねね月澤

祝言の舞をよそへる

あれ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

竹子

おねね月澤

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

栲列内云

苗



竹の子のこゝろいゝらしくさへいゝらしく

長田勝也

竹の子のあはせのひくきるらん竹枝

右林見笑

竹の子のあはせのひくきるらん竹枝

博宗信

竹の子のこゝろいゝらしくさへいゝらしく

昔和

竹の子のあはせのひくきるらん竹枝

本村物月

竹の子のあはせのひくきるらん竹枝

一畫法師

竹の子のあはせのひくきるらん竹枝

朝江行寛

竹の子のあはせのひくきるらん竹枝

東六条法親



竹のふれりんかかひのささりぬ

なほ

寛政

西のしら目ゆりかきいなるは

作志方知

くさくさいふこいこいさきもきき月

なれり

夫の勝やまき月さかきくさき

日さき

東の藤は秋

あまのこもいこいさきくさき

ねり一風子

くさぬぢかきぬりかきさき

なれり

さきかきあまのこもいこいさき

さきかきあまのこもいこいさき







百金巻

東の桑の女

ふらんちやひらきまらきしす車ゆり

新氏

鬼ゆりとうふ決しく花の匂ひ

なれり

麻のうけよしく鬼ゆりの魔王ん

娘ゆりの母のふれわらうら

新句巻

うべとこむんられむんらめ

依見一盞法師

鬼ゆりえりのにぬるや露のお

是指鬘る

日列歌文

ひのしまよまつれゆりなわらう

なれり



きそくは弱りしん競るしゆ

第三十

表紙

いぬめいひしよより此約り

若田家

いぬめいひしよより此約り  
いぬめいひしよより此約り

山本

いぬめいひしよより此約り

いぬめいひしよより此約り

山本

いぬめいひしよより此約り

銀行

いぬめいひしよより此約り

いぬめいひしよより此約り

いぬめいひしよより此約り

高瀬



1185 142

場成元

高藩しぬむやきみわ

場永守

ふけく軒れつまふりわ高藩

持名自云

つらうん高藩力のしら

場佳安伝

ふけく軒れつまふりわ高藩

神泉忠法

ふけく軒れつまふりわ高藩

新江野寛

あきらりあひれり

しづかにあきらむる

しづかにあきらむる

あきらむるのあきらむる

道者

聖徳太子

三十一



海ねよそよわぬのよすの島藤の

あつた

そねのちのちと出たのちのちが

中村のち

毎よわちかかんはてし

ちりゆりゆりゆりゆり

のちのちと海よりのちのち

あつた

ちのちのちのちのちのちのち

ちのち

あつた

ちのちのちのちのちのち

あつた

ちのちのちのちのちのち

あつた

ちのちのちのちのちのち



梅子や名もくつて念りしは竹

梅子や名もくつて念りしは竹  
み月夜

禅盛

み月夜

赤坂定信

杖の竹も勢と化すもやえられ

み月夜

はつとくちまきさのそふれ

い列子孫理安

布引の澁もみ月夜よさひくれ

場八丈三信

うらうらやすくさうを梅のぬ

なね物

み月夜うらうらやすくさうを梅のぬ

早苗







嗚也乞由露此行人鳥籠乃氣

成相斬

山崎よてうやその名も素時（其）

能作斬光方

嗚そ幼てらうらうらわさそと鶺乃也

くわな  
多鶺

場成元

賈（り）所乃斬行いやうあゝ多鶺也

鶺

一蓋法師

鶺乃乃多うに毎うあかふあふ

場成元

嗚あひわら鳥也ほられ大尾（い）

田中光法

あひわら鳥也ほられ大尾（い）

多女



ららるるれ中よかるとすやれ

橋下大宛

う治橋とひりりるるるるる

久ね

るくまき治河とらんさみかる

近流とすするほらやかきる地

善信

雲とくくくくくくくくくく

橋下勝也

ららるるれ中よかるとすやれ

治安

ららるるれ中よかるとすやれ

西作

ららるるれ中よかるとすやれ

くくくくくくくくくく

ららるるれ中よかるとすやれ



さうしうのうしうをてゑる  
ゆいそてんからゆりて尸

から

さうさうとてすはるるさうさう

なれね

登いの目そねわいあつるあつる  
らうすうてあもよまする  
月あよあつるらうとんあつる

美人草

銀政

美人草のうらさあつる

なれね

双六かんうらゆらあつる  
人くあつるあつる

あれさういあつるあつる  
あつるあつるあつる



西洞院久松

花よゆをこわたり入しと羨人草

凡小角豆

春松新

魁みろのあつれちや角豆

露よちれと名も凡や角豆

水門正法

らくらく二葉やうきさけりれ

なれ新

弓とみやゆり 的射一凡れ

美時よはくろ物とやうきり

物江行實

虫ひわすらきり雲く小船凡

山崎氏一書

ひやうと方じしうあいなむ

蝉







宇治山より見ゆる山道は茶  
うら酒の甘みしるははなやみ不郎  
夕魚

心算

夕魚も魚にとさくくり夕魚

中村心算

夕魚の花やよめよくれ時分

おねね基氏

登るもさか目くらり花さり

扇

立圃

一曲一うたその後句とす

くくくくく

同村中も念りしもあひまわ

懐別紙

くくくくく



和別是正

和人のつらふもわらうさうら

本和物基氏

月と日とをよしくもせん

基氏

わらうさうら布地乃わらう

本和物

多岐のつらふもわらう

本和物

布目地乃わらう

本和物

南郎園にわらう

本和物

子よかれん

本和物

公のつらふもわらう



あまの原を内約のうまれわき

少室

陽成元

御志のむしけりあまの原

少室

今朝のまはれ月乃くまら

クマ

武烈

いみじかりあまの原

持列川

クマのちんをまらむ

心

クマのまらむくまの原

クマのまらむくまの原

心

クマのまらむくまの原



蓮

本國寺之閑法師

不深世間法如蓮花在水

泥よ出てこゝろよきまゝぬ蓮ん

無氏

蓮花の美味もふりら河方若木

夏秋半

伏見慰聽

我々よく母衣やう出の神奈

吉田久寛

身のあつこもろんもあが神丸湯

此村西守

いかりそのゆーれんも多計

堀永之

かん物ちよんれんも多計

堀安治



冥途東山より書紙を今

新江持寛

りさりらましくれきや本賊山

丸田金房

わいあひの御書を今かく曲部

鯉ふかきくくくくくくくく

勝出

張のふかきくくくくくくく

らほいんせしきうりて書紙

紙を今かく六月をわさ

紙を今かく六月をわさ

なね物

りさりらましくれきや本賊山

中村西守

あうりらましくれきや本賊山

あうりらましくれきや本賊山



山入の御室を乃らんこのまじりて  
御室を今

貞純

米奈の山依屋の御新科  
御室を乃らんこのまじりて

正氏

長刀のまじりてあつた御室を今

神宗忠清

町中も御室を乃らんこのまじりて

宗町正業

山入の御室を乃らんこのまじりて

丹波貞吉

汗あもぬらぬ井山の御室を今

若山正成

月輝とみよのやうな御室を今

小山成清



多しめてくぬのりや御守を

文川盛守

ふやうくぬきりらやうぬ坂

天つとよりあもあも山や御園守

揚中清安

紙守を今やよきあかりしすら山

小山清康

ぶよりきしてあきらじくや紙守を今

宗能

のけいそら揚守をよき山とんこ

早ね尊

井上正伝

さうくちりんあれ山よりりさまるけ

場安治

あはらかえれ山とんこい早ねをけ

一巻酒



な松新

うらわしそくじのや我よ一転酒  
清水

場宗業

山もくすくす然とくすくす清水

な松新

なまじす清水のれ冠をくすくす

純潔

な松新

布引もみ濁やすくすくすあを我

おと吉孝茂

汗あのでる身の内乃濁中い

数氏

伝ぬらちりりあをわあを  
風のそれもんもろりくすくす

山崎一書



洒如也ささん所乃かんすん

侍者依来

吹風よ我身のあせり入り

場之活

わくこつりもろくもまそやう

なれ新巻氏

身がたれくや眼もたれく

玉汗とを汗くうらや林待女

御手洗

なれ新

園あり方道具もじり園あり

雜

本園寺雲岡法師

法之熱一念信解の手向ふ

但列善生法師

神乃くもやゆくもあつた







ききいんまかりたりらさる

村山堂本店

よこしきりあわのせん解れ記

伏見慰徳

わらこひいさいもまれくじわれ

湯濱井正村

夏れあひ解わくくめり寝泊れ

協成元

ふ周りあいうまうさ地の中

銀行新先方

四季紙やん丸れ方の身れいりち襦ちり子



三十九終

三十九終

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a note, located in the center of the right page. The text is written in dark ink and appears to be a personal or official mark.



